扱候處、右扱方御免ニ相成候上は、定番人とも而已ニ而は、非常其外見守方不行届之趣ヲ以、其頃御掛り樣江御願濟ニ而、添番人貳人出來、壹ヶ年給分貳人錢錢七拾貳貫文御渡相成候儀ニ御座候、

右御尋ニ付、此段申上候、以上、

申〇弘化五年二月

永代橋掛り

名主共

橋番請負人
水防請負人

〔初見分申渡〕

兩國橋東西

橋番請負人

同所

水防請負人

其方共銘々請負之通、諸事入念出水有之節は早速相屆、出火出水之節共、定之通人數差出、早速場所江相詰、防方出精可致、勿論鯨船鞘近邊出火之節は、是又人足召連駈付、御用書もの、水防道具持退方等、手後レニ不成樣可心付、

一水防請負人共は、出水有之防道具出し候節は、自分入用之品を先江相用候樣致し、御道具出シ入之儀は、引受之世話番を極置、紛失等無之樣可心付、

同所請負人手附

世話役之者

出火出水之節は、右申渡趣、兼而相心得、人足引纏罷出出精可致、

〔本所深川御用留〕本所掛諸請負場所